

令和2年度

行政評価資料

企画振興部企画課

1. 市と県立広島大学との連携強化について

(1) 概要

本市の貴重な資源である県立広島大学とは、地域課題の解決などに連携して取り組んでおり、以降、委員会委員や講師等の依頼、共同研究などで連携し、専門的見地から貴重な提言をいただくことで、円滑な事業推進が図られています。

しかし、近年は市と県立広島大学庄原キャンパス及び庄原キャンパスで学ぶ学生との関係が希薄となっており、今後の関係の再構築が必要と考えています。

(2) 令和元年度からの取り組みとその視点

令和元年6月から、市と県立広島大学庄原地域連携センターによる定例会を開催し、定期的な意見交換を行っています。

この定例会においては、学生が市内に出て活動するためには、学生と地域の連携システムの構築、活動資金や移手段の確保が課題であるとの意見が出されています。

そのため、学生の地域課題活動の支援を目的に、「地域課題解決サポート会議（仮称）」を大学・地域・市等で組織し、学生による地域課題解決を軸として大学⇄地域との連携を深める取り組み「地域課題解決活動プロジェクト」（案）を行いたいと考えていますが、地域の取り組みの機運をどう盛り上げていくかが重要と捉えています。

■市と県立広島大学庄原地域連携センターによる定例会 構成員

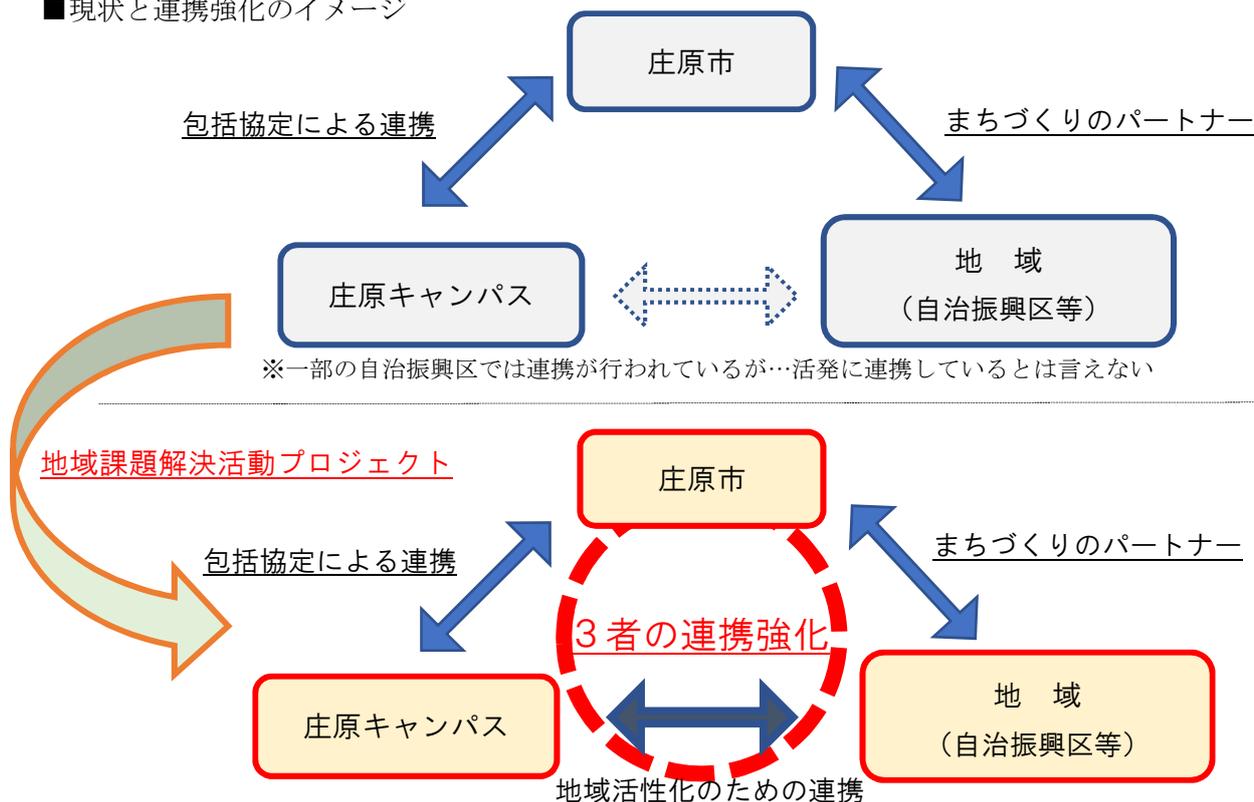
◆県立広島大学庄原キャンパス 6名

生命環境学部部長、庄原地域連携センター長 庄原キャンパス事務部次長、同教学課長等

◆市 7名

企画振興部企画課長、自治定住課長、商工観光課長等

■現状と連携強化のイメージ



(3) 令和2年度の取り組み【新型コロナウイルス感染症の影響により、事業延期中】

① 学生と地域の連携システムの構築検討

・庄原地域連携センター・自治振興区連合会・市等で構成する学生地域活動サポート会議準備会の開催

・学生と市内自治振興区役員等との意見交換会と現地見学

② 学生に本市を知ってもらう活動

・SNSや大学掲示板を活用した市内情報の発信

③ キャンパスツアーの実施

・市民を対象としたキャンパスツアー（大学説明・図書館見学・模擬講義・フィールド科学センター内の果樹収穫体験・学食での昼食等）の実施

2. 県立広島大学庄原キャンパスについて

(1) 沿革

平成元（1989）年4月 広島県立大学開学（経営学部・生活資源学部）

平成6（1994）年4月 大学院修士課程開設（経営情報学研究科、生物生産システム研究科）

平成10（1998）年4月 大学院博士課程開設（経営情報学研究科、生物生産システム研究科）

平成17（2005）年4月 県立広島女子大学（広島市）及び広島県立保健福祉大学（三原市）と統合し県立広島大学が開学、旧広島県立大学は庄原キャンパス（生命環境学部）に改組

令和2（2020）年4月 生命環境学部から生物資源科学部に改組

(2) 学生数（令和2年5月1日現在）

学部生 654名 大学院生 47名 合計 701名

3. 市と県立広島大学との関わり

(1) 「包括的連携・協力に関する協定」に基づく連携

平成18年3月、広島県立大学の開学以来、長年に亘り培ってきた信頼関係を基盤に、県立広島大学が持つ知的資源を活かして、市が抱える地域課題の解決や市民サービスの向上など地域社会の発展に資する取り組みを推進するため、「包括的連携・協力に関する協定」を締結しました。

以降、市の設置した委員会における委員就任や講師等の依頼、共同研究などで連携し、専門的見地から貴重な提言をいただくことで、円滑な事業推進や人材育成に大きな効果を得ています。

■自治体との包括協定締結状況

平成18年	3月	庄原市	4月	三原市	11月	廿日市市
平成19年	1月	安芸高田市	12月	世羅町		
平成21年	2月	尾道市	3月	江田島市	5月	三次市
平成26年	2月	広島市南区				
平成30年	2月	大崎上島町				

(2) 主な連携の取り組み

① 地域戦略協働プロジェクト

「地域戦略協働プロジェクト」とは、県立広島大学と包括的連携・協力協定を締結している県内自治体とが協力し、地域や自治体が抱える課題の解決を図ることを目的とした共同研究や調査、啓発活動等を、県立広島大学主導で取り組む事業です。

■地域戦略協働プロジェクト これまでの主な取り組み

年度	事業名
H22	イノシシの忌避方法に関する調査・研究
H23・24	イノシシ防除のための忌避機材の開発及び実用化に向けた調査研究
H25・26	竹堆肥の施用効果及び庄原産米の食味値向上についての実証調査研究
H27	健康増進施設 比和温泉施設あけぼの荘の利活用計画の策定に係る調査研究
H29	学校給食の食品廃棄物を肥料化する食品リサイクルループ形成促進
H30	庄原市シルバーリハビリ体操普及啓発事業がもたらすプラス効果について
H31	シルバーリハビリ体操教室に継続参加することでのプラス効果について
R2	比婆いざなみ街道 ブナ林の生態系にあるクロモジを活用した香りビジネス展開について

平成19年度からこれまで、森林資源の活用や有害鳥獣忌避装置の開発、竹堆肥を利用した水稻栽培、高齢者介護予防体操啓発など、様々な分野での研究・調査を実施され、地域課題の解決に資する取り組みを実施されています。

② 県立広島大学研究開発助成事業

大学の研究者が所有するシーズ（※）を活用した研究成果を商品化・事業化に結び付け、新たな産業創出による地域活性化を図ることを目的に、同大学の研究者が行う地域資源を活用した農林業振興、環境保全や福祉ビジネスの研究に対して助成するもので、平成17年度から平成26年度まで実施していました。

※シーズ：研究開発や新規事業創出を推進していく上で必要となる発明（技術）や能力、設備のこと

■研究開発助成事業 主な成果（10年間の採択件数30件（提案51件） 交付額：95,698千円）

- ◆ りんごに関する機能性向上や着色促進についての実証実験を実施
- ◆ ドングリ豚肥育に関する研究を通じた地域ブランド「どんぐりコロコロ豚」を開発
- ◆ マツタケ山再生に関する研究として、地域と連携して荒廃したマツタケ山の手入れ等を実施
- ◆ 庄原産農産物を用いた高機能性食品の加工ならびに製品化に関する研究により、ビタミンC入りジャムシリーズの販売を実施
- ◆ 庄原産有色米を使用した米糠クッキーや米糠パンを商品化
- ◆ 庄原特産エゴマを使った機能性食品づくりに関する研究により、エゴマ葉の緑茶を開発

③ 県立広島大学地域課題解決研究事業

県内の地域課題に対して、県立広島大学が対応可能なテーマを提示した上で公募し、提案者と県立広島大学が共同してその解決を目指した研究を行う事業です。

提案課題として、地域において解決を迫られている課題のうち、主に以下のテーマについて研究が行われています。

- ◆ 健康な生活と暮らしの安心・安全のための研究
- ◆ 分権社会のなかの地域活力増進への研究
- ◆ 生活と環境を快適にする技術開発研究
- ◆ 多文化共生社会への研究
- ◆ 地域イノベーション・システムの研究 など

■ 地域課題解決研究事業 最近の主な取り組み

◆ 平成28年度

応募件数：1件・採択件数：1件

担当課	研究課題名
林業振興課	庄原産木質ペレットの燃焼灰を有効活用し、廃棄物から有価物への転換

◆ 平成29年度

応募件数：3件・採択件数：3件

担当課	研究課題名
林業振興課	庄原産木質ペレットの燃焼灰を有効活用した、廃棄物から有価物への転換 (平成28年度継続事業)
いちばんづくり課	ドローン活用事業を創発する中小事業者育成プログラムの開発・実践に関する研究
生涯学習課	広島地域資源：天然記念物の樹木の保全と活用に関する研究

◆ 平成30年度

応募件数：1件・採択件数：1件

担当課	研究課題名
生涯学習課	広島地域資源：天然記念物の樹木の保全と活用に関する研究

◆ 令和2年度

応募件数：1件・採択件数：1件

担当課	研究課題名
自治定住課	庄原市における空き家活用による定住施策の推進について

④ しょうばら産学官連携推進機構（平成15年4月設立）

産業や地域活力の低下が進む中、地元の企業が持つ事業改善や新分野開拓などのニーズを、県立広島大学などが有する研究機能や研究成果と結び付け、経営の合理化や新規の事業化、商品化等を実現するためのマッチング組織（専任のコーディネーター1名）として活動しています。

■しょうばら産学官連携推進機構による最近の主な研究事業

◆令和元年度

研究課題名
広島型キャベツ100ha経営スマート農業実証コンソーシアムによる実証事業 (AIによる作業管理、自動運転トラクター、ドローンによる農薬散布等)

◆令和2年度

研究課題名
搾乳ロボット併用「ハイブリッド酪農」による労働力不足の解消と労働生産性の向上に向けた実証事業 (搾乳ロボットによる作業軽減、ICT機器活用による牛の体調管理等)

⑤ 各種委員委嘱・講演会講師等依頼の状況

市が設置する各種委員会や、市主催の様々な講演会の講師として、県立広島大学から協力を頂いています。

■最近の主な委員・講演会依頼の状況

年度	委員委嘱	講演会
H27	18件・22人	1件・6人
H28	15件・17人	1件・6人
H29	18件・20人	1件・7人
H30	19件・21人	1件・8人
R元	17件・19人	2件・8人

4. 地域（自治振興区等）と県立広島大学との関わり

(1) 地域との連携

これまで、地域イベントの支援や小学生の学習支援、農産物や森林資源等を活用した地域活性化の取り組みなど、学生との積極的な連携を模索されている自治振興区もあります。

また、サークル活動や個人的なつながりによる地域や市民との協働の実績もありますが、こうした動きは、市内全域への広がりがまだ不十分であり、さらには学生と地域のニーズのマッチングにも課題があることから、より連携を深める体制の構築が必要と考えています。

■最近の主な連携事業の状況

振興区	連携内容（年度）
峰田	●くろもじ茶、芍薬（切花）を活用した特産品づくり（H28） 【内容】ワークショップ、基本計画書作成支援 ●薬用測定サンプル採取（R元） 【内容】芍薬の球根の成分分析及び論文作成のための採取。
山内	●竹堆肥を利用した「里山の夢」市場調査等（H26） 【内容】里山の夢の市場調査を実施 ・ 田んぼの状況確認 ・ 里山の夢の研究会に参加
北	●川北放課後子供教室（H27） 【内容】川北小学校児童の放課後児童の見守り支援（庄原市教育委員会委託事業）
口和	●地域活性化研修会「くちわらぼ」（H27） 【内容】「ファーマーズハンズ」の活動発表と意見交換会

西城	<ul style="list-style-type: none"> ●学生の受入れ及び実習協議（H30） 【内容】原木採集現場、薪加工現場等を現地視察、薪づくりの実習及び協議 ●西城木の駅プロジェクトに関わる県大との協議（R元～） 【内容】自治振興区、大学、県（環境政策課）、市（商工林業課）、コンサル等による現地研修等、研究委託 ●環境科学科1年生との「環境科学セミナー1」の合同講義（R元） 【内容】町内の事業所や原木採集現場、薪加工現場等の現地視察、薪づくりの実習、関係者等（振興区役員、プロジェクトメンバー、市議、県、市、森林組合、観光協会、高校、中学校等）とのワークショップ
八銚	<ul style="list-style-type: none"> ●やほこ収穫祭（H28・H30） 【内容】サークル（ファーマーズハンズ）による来場者の受付、案内、販売協力
田森	<ul style="list-style-type: none"> ●栗田放課後子ども教室（H27・H28） 【内容】放課後子ども教室で子どもたちに学習指導やレクリエーションなどを通じて交流
帝釈	<ul style="list-style-type: none"> ●東城木の駅プロジェクト見学（H30） 【内容】東城木の駅プロジェクトの概要説明、質疑応答、ワークショップ、現地見学